

## 茨木市の地域特性

### 1 自然特性

#### 1.1 位置・地勢

本市は、淀川北の大阪府北部に位置し、北は京都府亀岡市に、東は高槻市、南は摂津市、西は吹田市・箕面市・豊能郡豊能町に接しています。北半分は丹波高原の老の坂山地の麓で、南半分には大阪平野の一部をなす三島平野が広がっています。

南北 17.05 km、東西 10.07km、面積 76.52km<sup>2</sup>の、南北に長く東西に短い形で、北から南に向かって安威川・佐保川・茨木川が流れています。

図 茨木市の市域図（出典：茨木市観光協会みどころマップより作成）



※次ページに示す本市が導入している新エネルギー・省エネルギー等設備をプロットしています。

表 本市が導入している新エネルギー・省エネルギー等設備一覧表

施設名	竣工年月	設置設備			
		新エネルギー		省エネルギー等	
五十鈴市民プール	S58.11	太陽熱利用	472.5㎡		
中央図書館	H3.12			蓄熱空調	
西河原市民プール	H5.6	コージェネレーションシステム	288kW	蓄熱空調	
障害福祉センターハートフル	H8.3			蓄熱空調	
環境衛生センター	H8	廃棄物発電	10,000kW		
老人福祉センター沢池荘	H9.2	太陽熱利用	79.4㎡		
		コージェネレーションシステム	36kW		
市庁舎南館	H9.4			蓄熱空調	
				雨水利用	140㎡
下穂積分署	H10.9			蓄熱空調	
水尾コミュニティセンター	H11.2			雨水利用	1㎡
男女共生センターローズWAM	H11.12			蓄熱空調	
郡コミュニティセンター	H12.6			雨水利用	1㎡
西河原コミュニティセンター	H12.7			雨水利用	1.5㎡
保育所(18施設)【空調増設】	H14.7			蓄熱空調	
福祉文化会館【空調改修】	H14.8			蓄熱空調	
畑田コミュニティセンター	H14.10	太陽光発電	4kW	雨水利用	1㎡
東市民体育館	H14.12	太陽光発電	20kW	蓄熱空調	
				雨水利用	140㎡
安威公民館	H15.9	太陽光発電	5kW	蓄熱空調	
				雨水利用	2㎡
老人福祉センター南茨木荘	H16.1	太陽光発電	12kW	雨水利用	25㎡
		コージェネレーションシステム	19.6kW		
彩都西小学校	H16.3	太陽光発電	10kW		
生涯学習センター	H16.9	太陽光発電	20kW	蓄熱空調	
				雨水利用	120㎡
豊川コミュニティセンター	H18.3	太陽光発電	5kW	雨水利用	1㎡
彩都西中学校	H20.3	太陽光発電	10kW	雨水利用	49.5㎡
合同庁舎【空調改修】	H20.12			蓄熱空調	
下井分署【改修】	H20.12	太陽光発電	5kW		
南市民体育館	H22.3	太陽光発電	20kW	雨水利用	53㎡
東奈良小学校【改修】		太陽光発電	10kW		
西河原小学校【改修】		太陽光発電	10kW		
西小学校【改修】		太陽光発電	10kW		

※現在、コージェネレーションシステムは平成20年(2008年)1月29日の新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法施行令の一部を改正する政令により、新エネルギーの対象から除外されています。

## 1.2 気象

本市の気候は穏やかな瀬戸内気候区に属し、日照が多く比較的温暖であり、市の中心部における平年の平均気温は16.8℃で、山地部においては13℃前後とやや冷涼性を帯びています。

平均風速は1.8m/sで大阪府観測所（大阪府中央区大阪城）の2.6m/sよりも低く、日照時間は1909.5時間/年と大阪観測所（1996.4時間）よりも短くなっています。平均気温は1981年から2010年の約30年間で、2℃以上上がっています。

図 茨木市の降水量と平均気温

（出典：気象庁 気象データ（枚方観測所）統計期間は1981年～2010年）

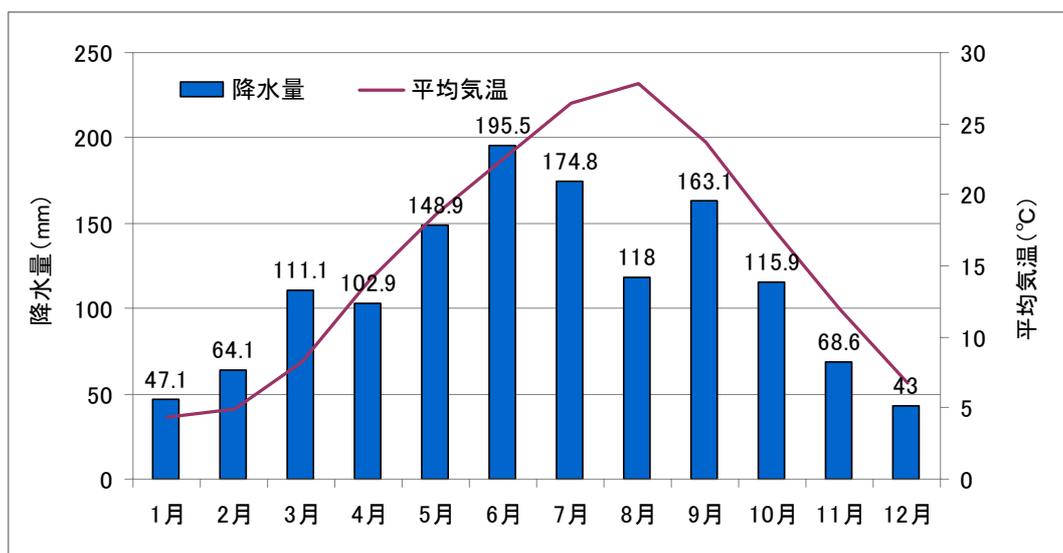
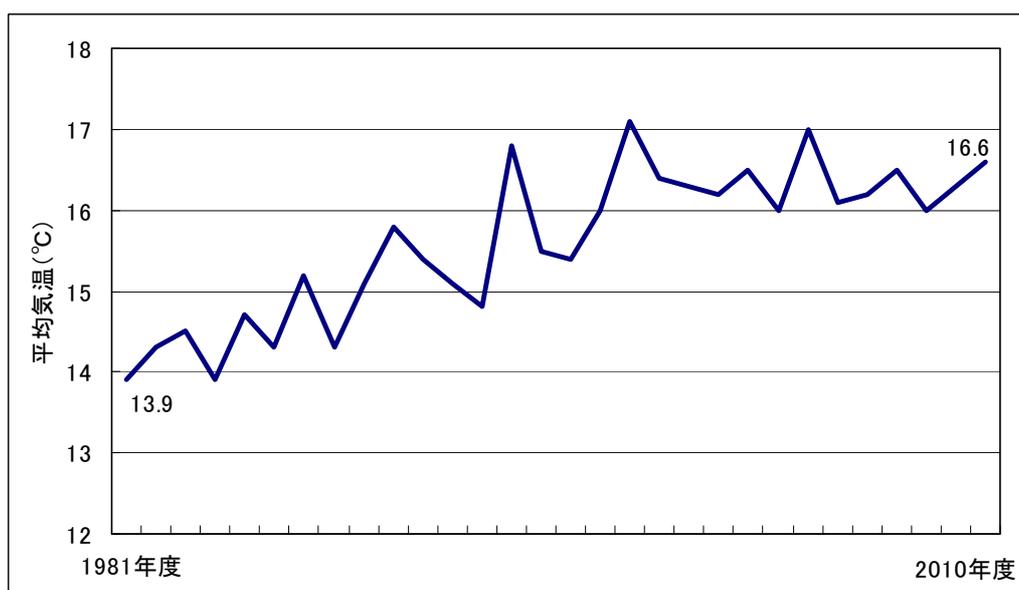


図 茨木市の平均気温

（出典：気象庁 気象データ（枚方観測所）統計期間は1981年～2010年）



## 2 社会・経済特性

### 2.1 人口と世帯数

本市の人口は274,832人、世帯数は112,186世帯です（2010年10月時点）。人口、世帯数ともに増加を続けていますが、世帯数の増加が人口の増加よりも急激に進んでいるため、1世帯あたり人員数は、1990年に2.88人だったものが、2010年には2.45人と減少しています。本市と大阪府全体の1世帯あたり人員数を比較した場合、本市は大阪府全体より多い傾向を示します。

図 人口と世帯数 （出典：茨木市統計書）

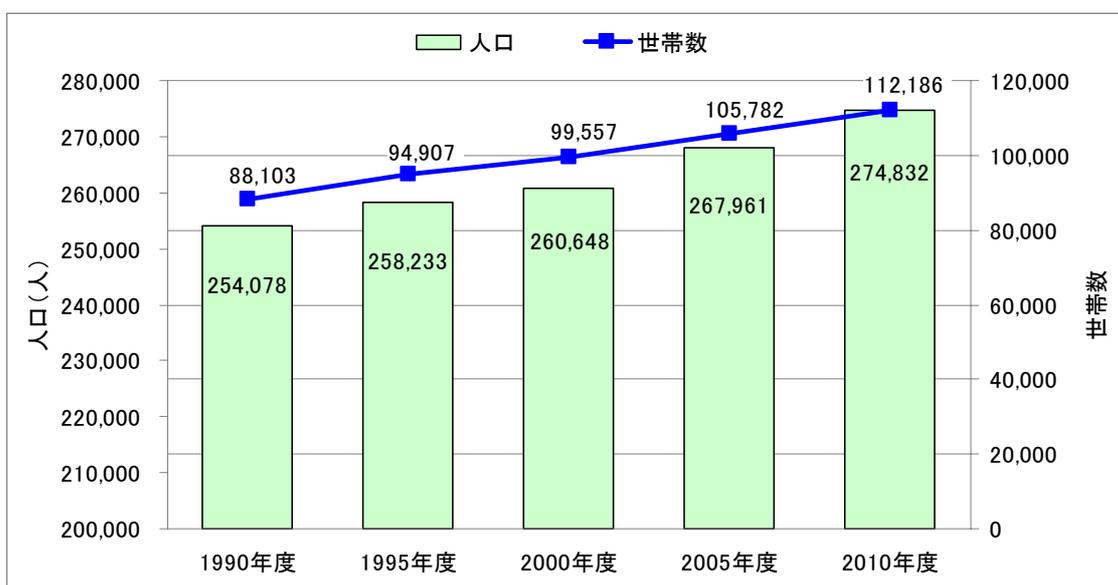


図 1世帯あたり人員数 （出典：茨木市統計書）

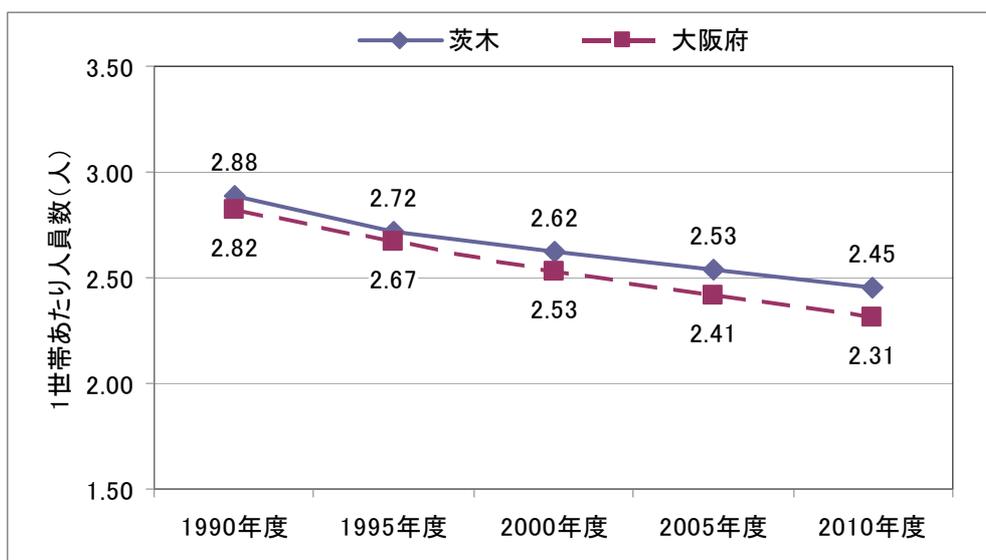


図 世帯人数別世帯数の変遷 (出典：茨木市統計書)

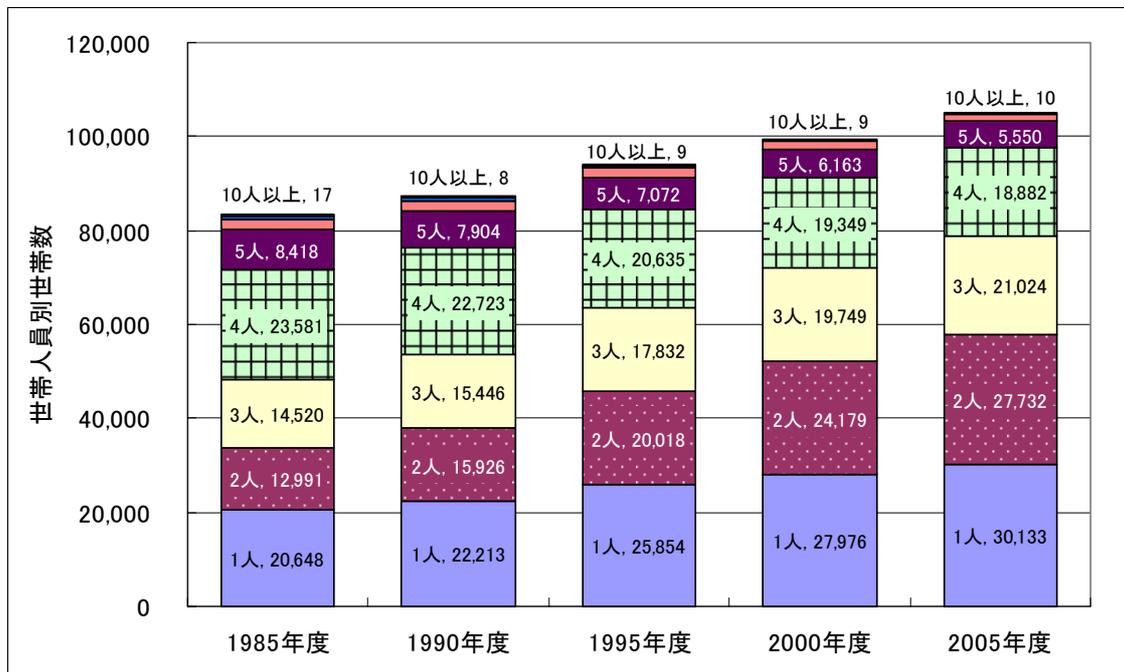


図 茨木市世帯人数別世帯数 (2005年)  
 (出典：平成17年度国勢調査)

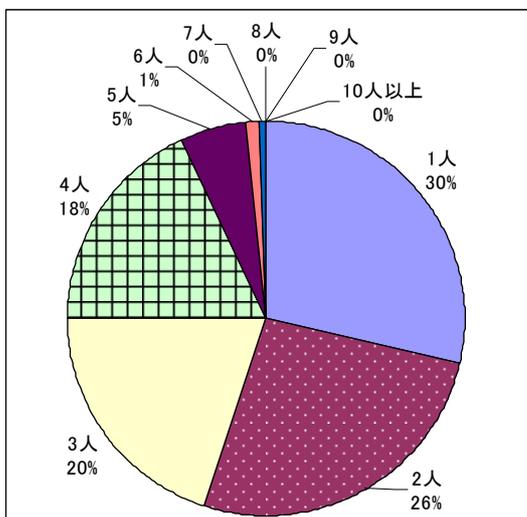
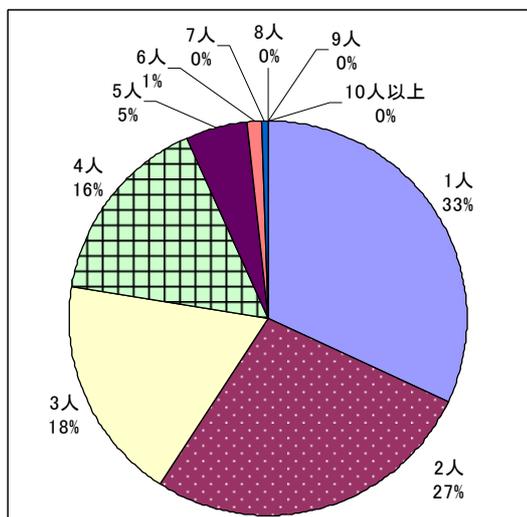


図 大阪府世帯人数別世帯数 (2005年)  
 (出典：平成17年度国勢調査)



年齢3区分別推移では、15歳未満が減少し、65歳以上が増加しており高齢化が進んでいます。世帯の家族類型では、単身世帯や夫婦のみの世帯が増加し、夫婦と子どもから成る世帯が減少しています。

図 年齢3区分別推移 (出典：茨木市統計書)

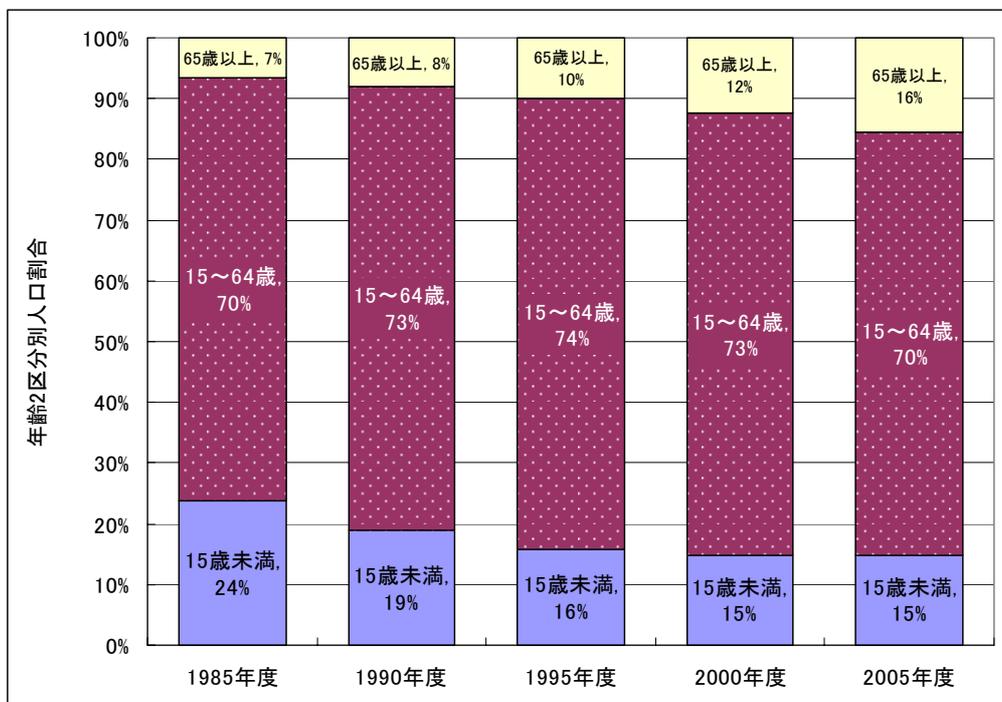
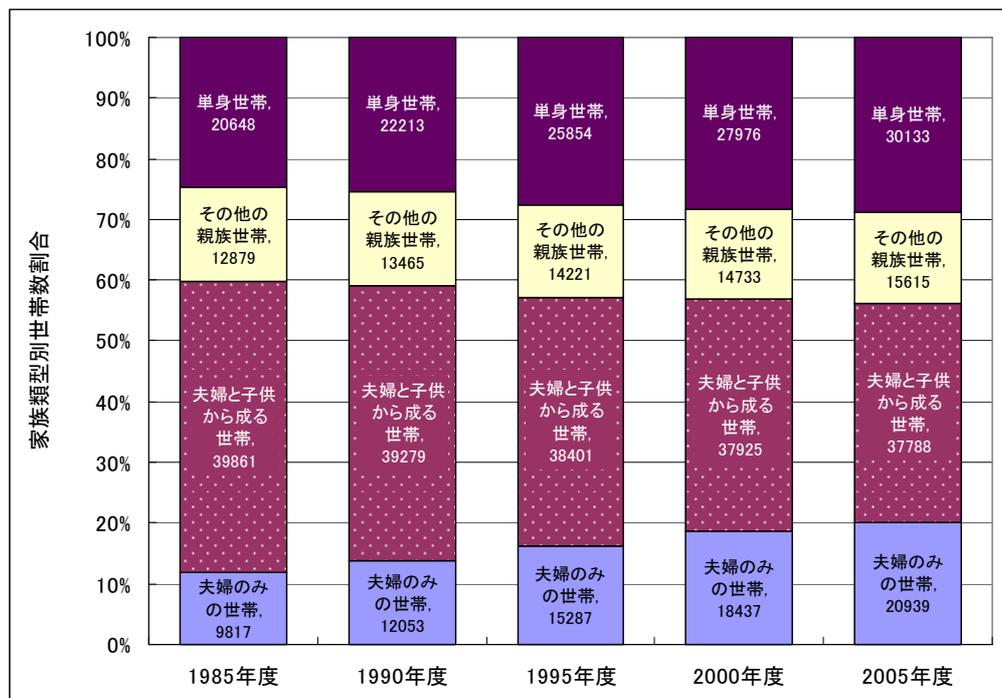


図 世帯の家族類型 (出典：茨木市統計書)



## 2.2 産業

市内の事業所数は9,172事業所、従業者数は103,486人（2006年現在）です。事業所、従業者数ともに1996年をピークに減り始めており、1996年から2006年の10年間で、約900事業所、1万人の減少となっています。

製造業に関わる規模別事業所数では、10人未満の小規模事業所数の減少が進んでいます。製造品出荷額は2005年をピークに同程度で推移しています。産業分類別には、第3次産業に携わる事業所が非常に多い状況です。

図 茨木市内の事業者数・従業員数（出典：茨木市統計書）

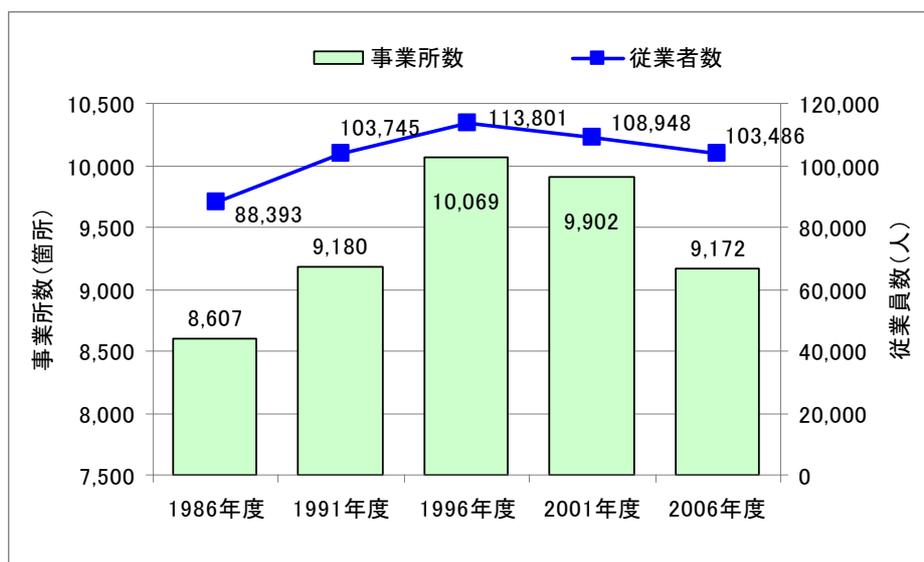


図 事業者規模別の事業所数（製造業）（出典：茨木市統計書）

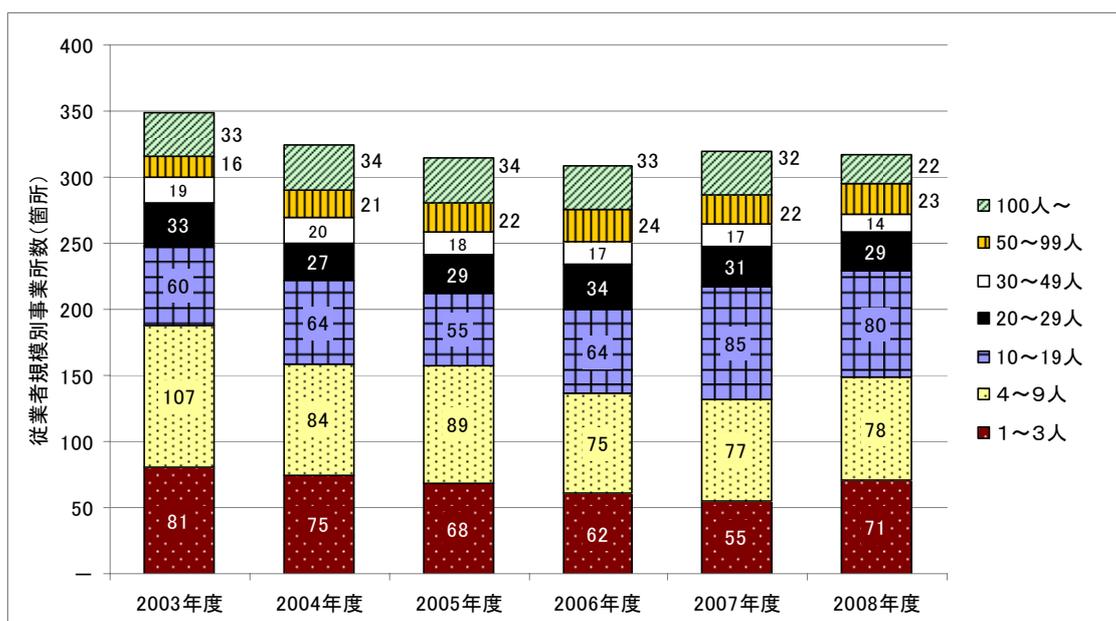


図 産業分類別事業所数 (出典：茨木市統計書)

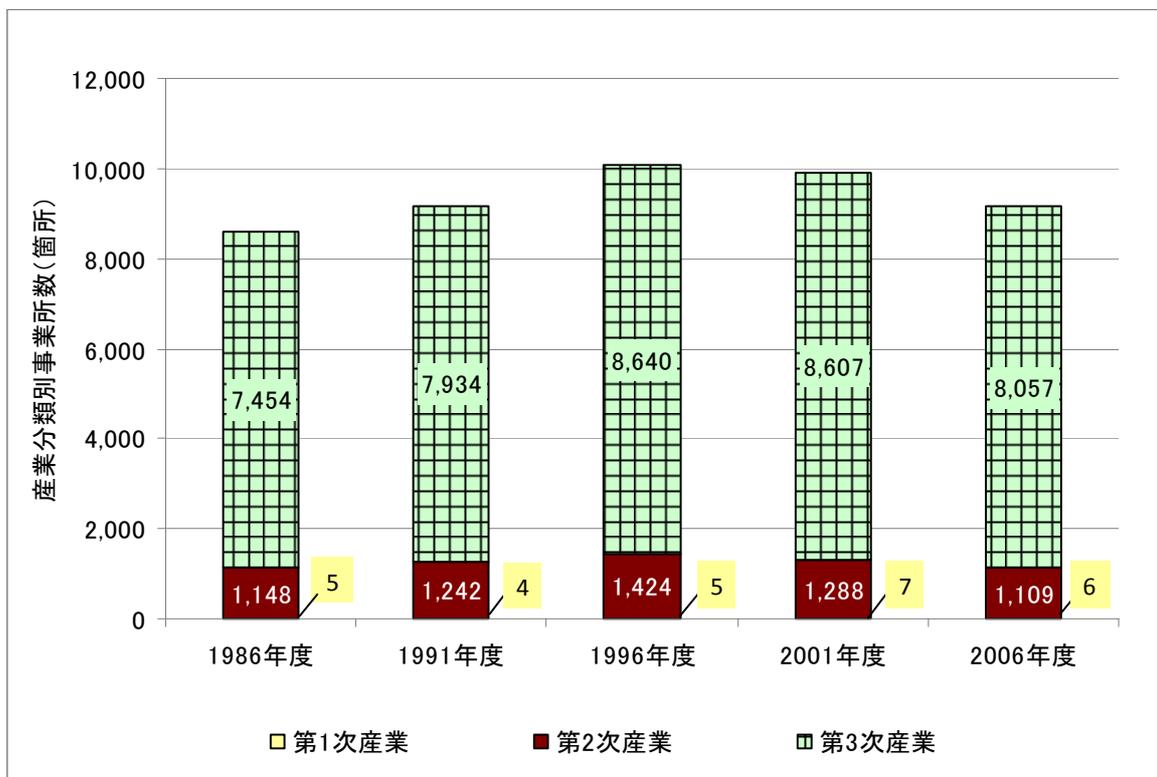
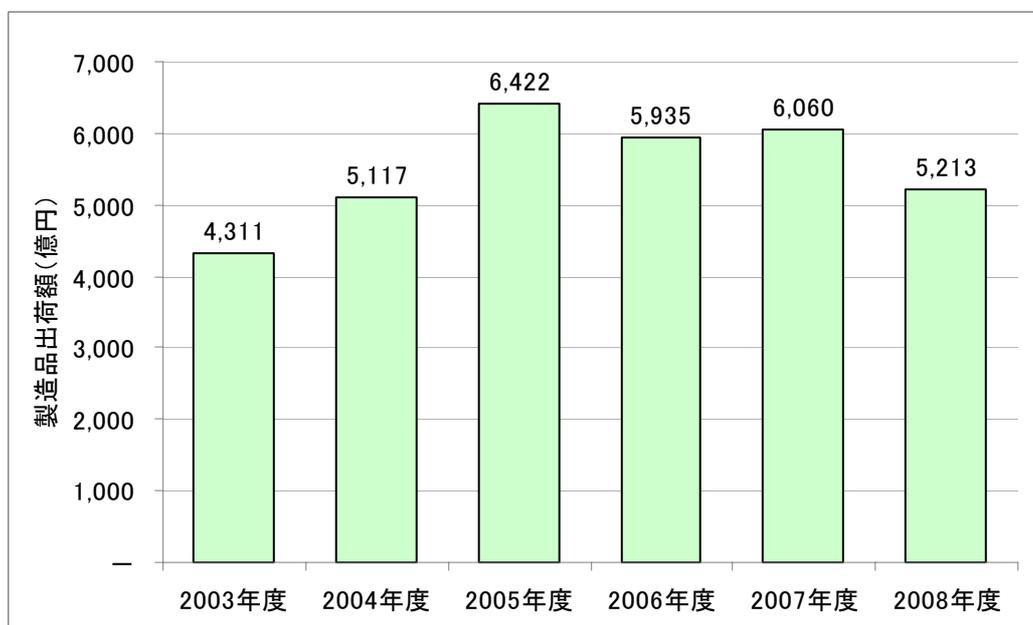


図 製造品出荷額 (出典：茨木市統計書)



## 2.3 交通

JR 東海道本線と阪急京都線が市の中央部を並行して走っており、市域には、JR1 駅（茨木駅）、阪急3 駅（総持寺駅、茨木市駅、南茨木駅）が設置されています。また、大阪モノレールがそれら2 線をまたぐ形で市城南西部を走り、4 駅（宇野辺駅、南茨木駅、沢良宜駅、阪大病院前駅）が設けられているほか、平成18 年度には、大阪モノレール彩都線の2 駅（豊川駅、彩都西駅）が開業を迎えました。

旅客状況（2008 年度）は、JR 茨木駅で16,676 千人、阪急3 駅で24,847 千人、大阪モノレール線3 駅で6,328 千人、彩都線3 駅で2,173 千人の乗車客数となっており、ここ5 年では大阪モノレールは増加、JR 及び阪急は同程度の水準が続いています。

バス路線については、JR 茨木駅、阪急茨木市駅等の市の中心部と周辺を結ぶ交通機関として、阪急バス、近鉄バス、京阪バスの3 社によるバス交通がその主な役割を果たしています。バス乗車人数は、3 社の合計で10,000 千人弱であり、直近5 年では減少傾向にあります。

レンタサイクルも積極的に行われており、JR 茨木駅では、定期400 台、1 回利用100 台の計500 台、阪急茨木市駅では、352 台が利用されています。

道路については、名神高速道路、近畿自動車道のほか、国道171 号、大阪中央環状線など多くの広域幹線道路が走っています。

図 道路交通網（出典：茨木市観光協会）

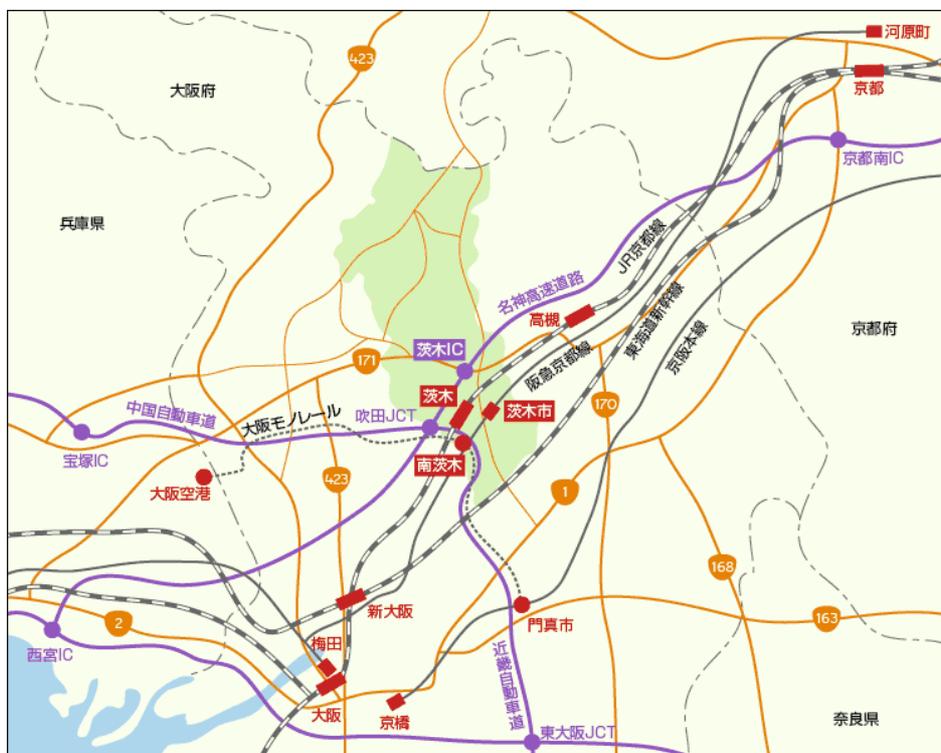


図 鉄道利用者乗降者数（出典：茨木市統計書）

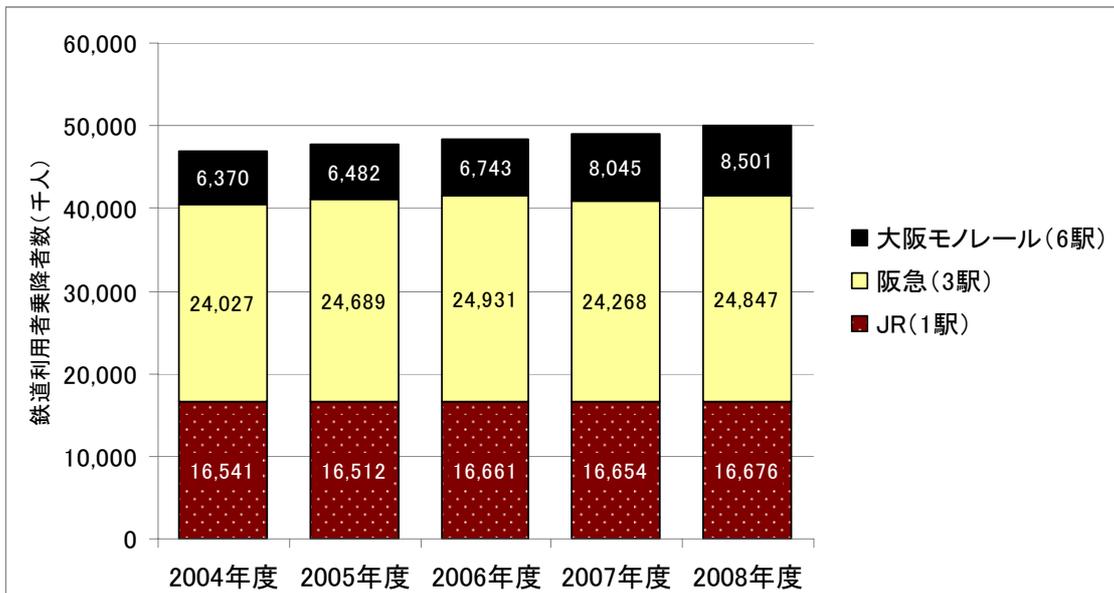


図 バス乗車人数（出典：茨木市統計書）

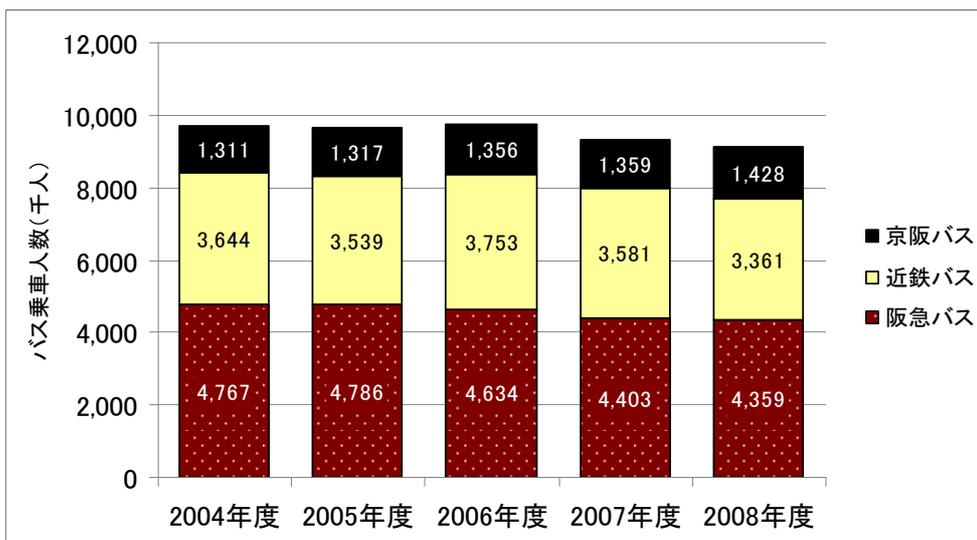
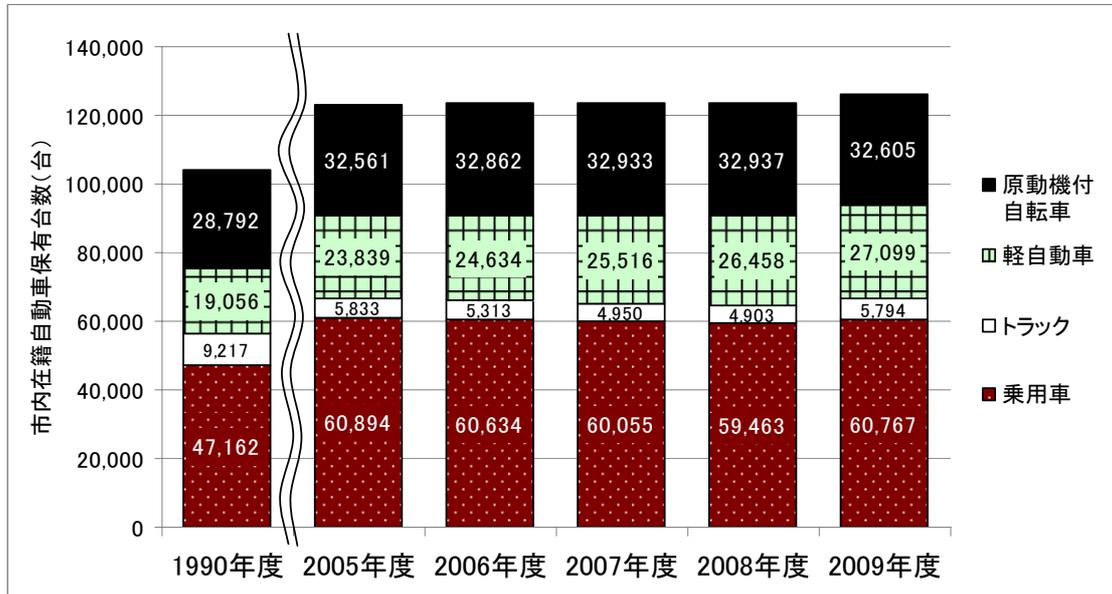


図 市内在籍自動車保有台数（出典：茨木市統計書）

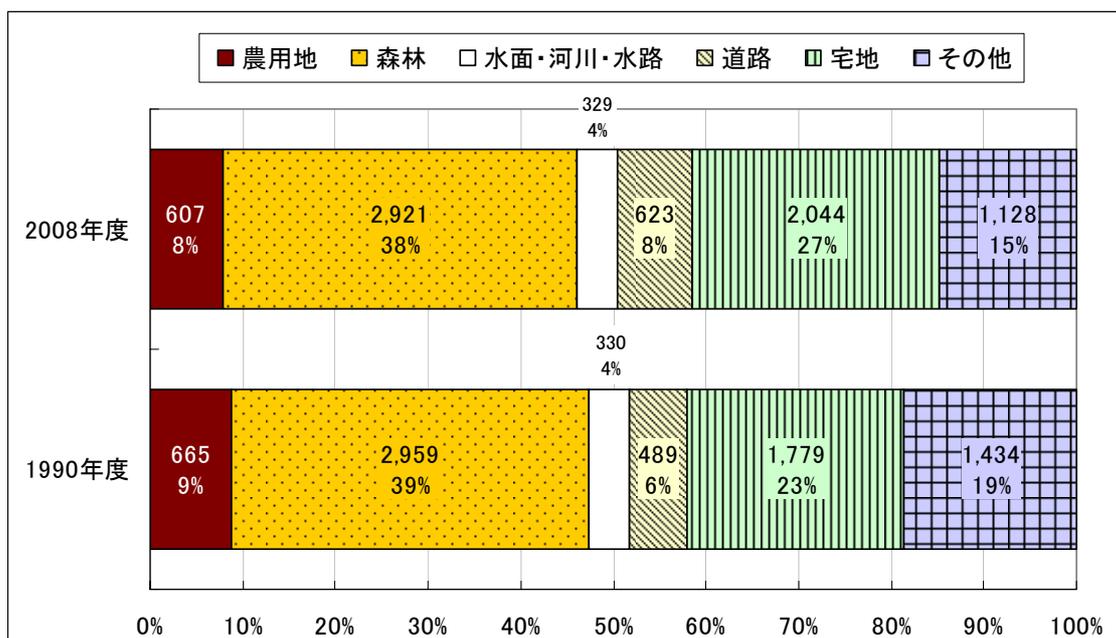


## 2.4 土地利用

本市の土地利用状況は、2008年現在で森林が2,921haで全体の38%を占め、次に宅地が2,044haで全体の27%を占めます。

1990年からの変遷をみると、宅地、道路が増加傾向にあり、森林、農用地は減少傾向にあります。

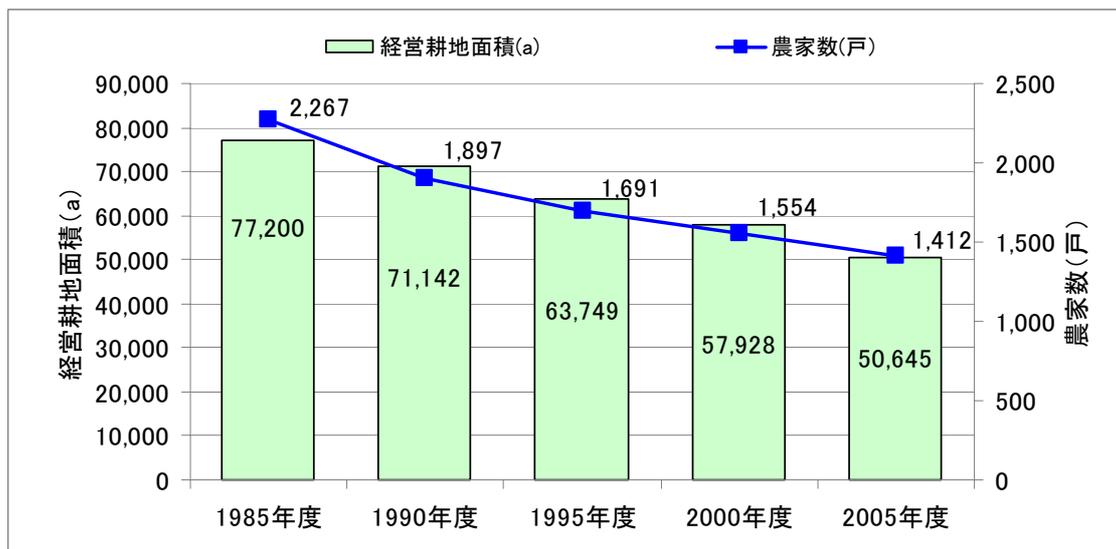
図 土地利用の状況（出典：大阪府「国土利用計画関係調査—土地利用状況—」）



■農業について

1985年度から2005年度までの20年間で、経営耕地面積および農家数は減り続けており、経営耕地面積は35%減、農家数は38%減となっています。

図 経営耕地面積と農家数の変遷（出典：茨木市統計書）

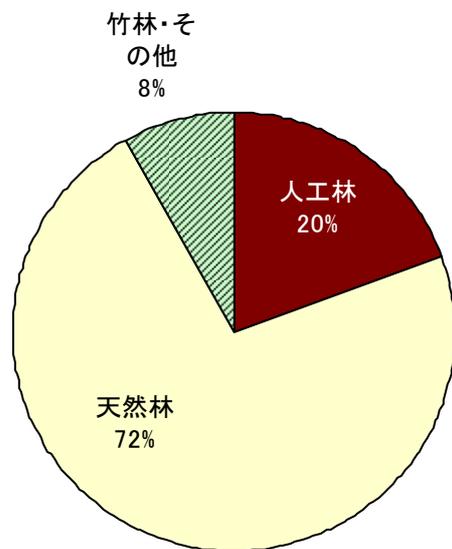


■森林・林業について

本市の森林面積は2,921haあり、そのうち民有林が2,791haです。市面積に占める森林面積（林野率）は38%となっています。民有林のうち、スギやヒノキなどの人工林の面積は546haあり、森林面積に占める人工林率は20%と日本全国的人工林率41%よりは低い状況となっています。大阪府下平均49%から見ても人工林への転換は依然として低調ですが、毎年微増しています。

森林の特徴としては、気候の影響によりほとんどが暖帯林に属し、アカマツの天然林が多く、次いでクヌギ、コナラ等の広葉樹林が見られ、暖帯林本来のシイ、カシ林はわずかに存在する程度です。しかし、マツ林では松くい虫の被害が依然として存在し、解決すべき問題となっています。一方、近年、森林の公益的機能が全国的に注目され、特に都市近郊林において、その傾向が著しく、人工林一辺倒の林業経営が見直されはじめています。本市においても市民からは身近な自然環境資源としての保全整備に対する期待が強くなっており、この豊かな森づくりを実現するために森林ボランティアなどの参加による森林の整備が行われています。

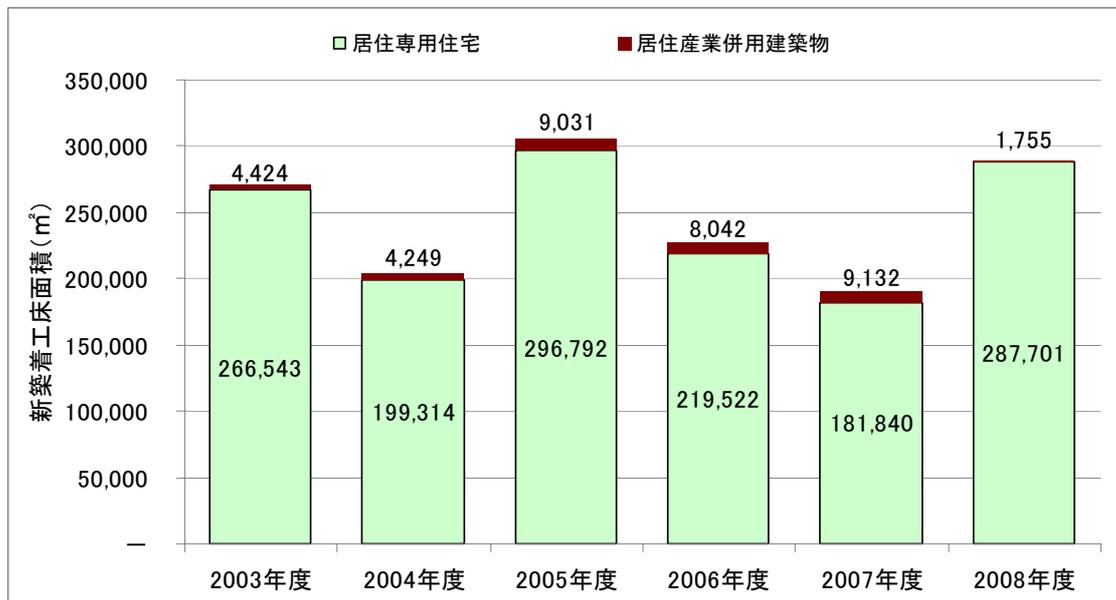
図 森林資源面積割合（民有林）（出典：茨木市統計書）



## 2.5 住宅

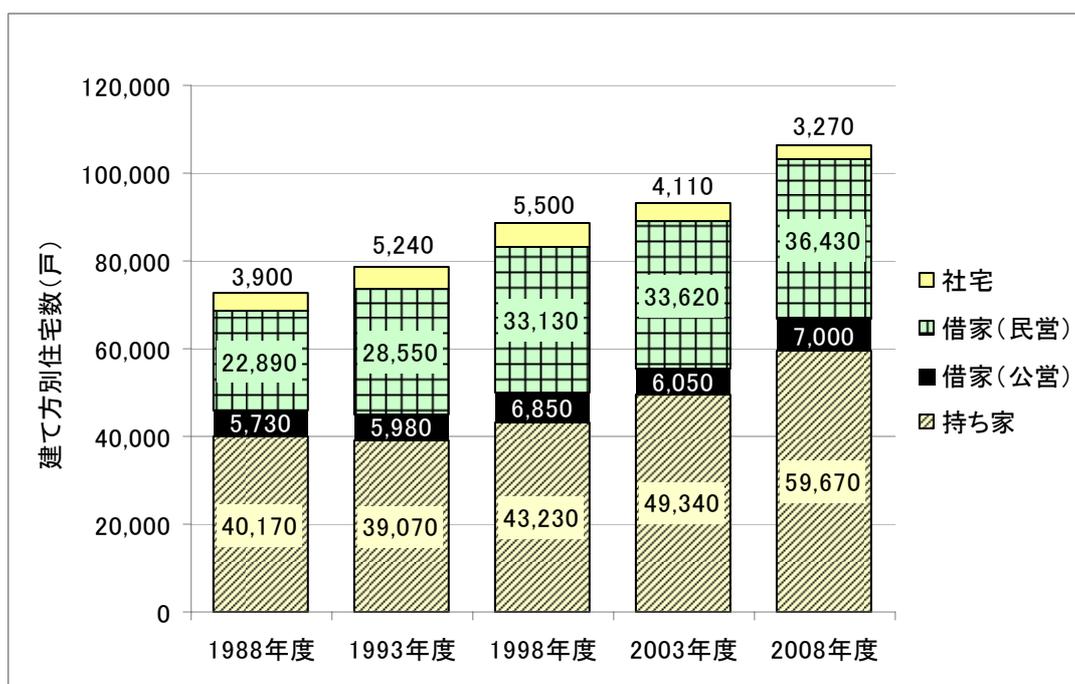
本市の住宅着工床面積は、毎年19～30万㎡程度で推移しています。

図 新築着工床面積（住居）の変遷（出典：茨木市統計書）



建て方別世帯数は、持ち家が半数以上と最も多く、1998年度以降増加しています。また、借家も40%以上と多いため、持ち家と借家それぞれに対する対策が今後必要と考えられます。

図 建て方別住宅数の変遷（出典：茨木市統計書）



専用住宅の所有関係をみると、共同住宅の借家が占める割合が最も多く、次に一戸建の持ち家、共同住宅の持ち家が続きます。

図 専用住宅の所有関係別住宅数の変遷 (出典：住宅土地統計調査)

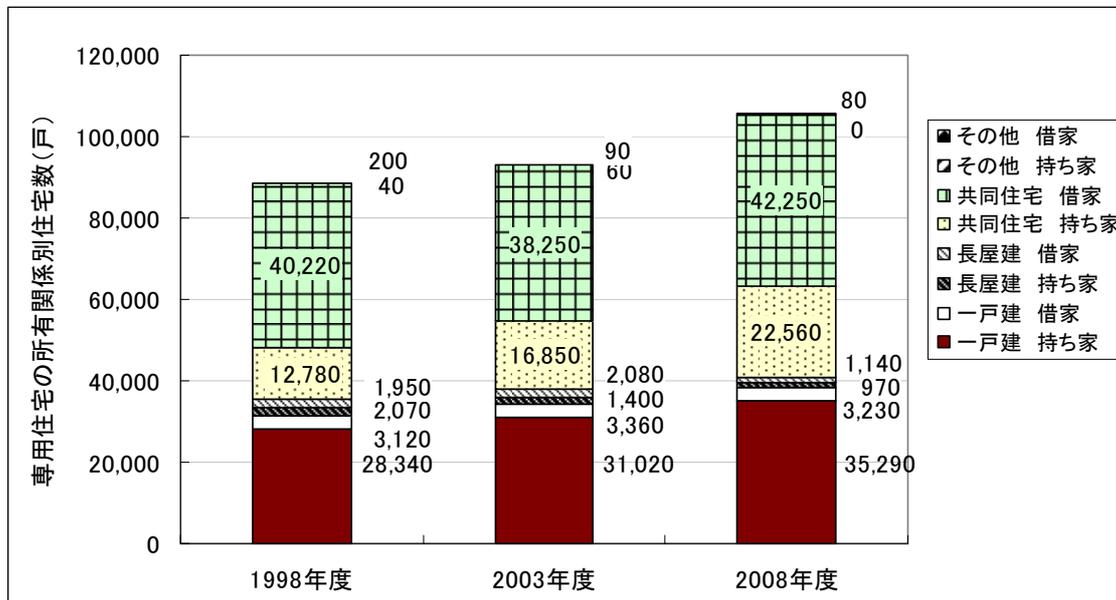
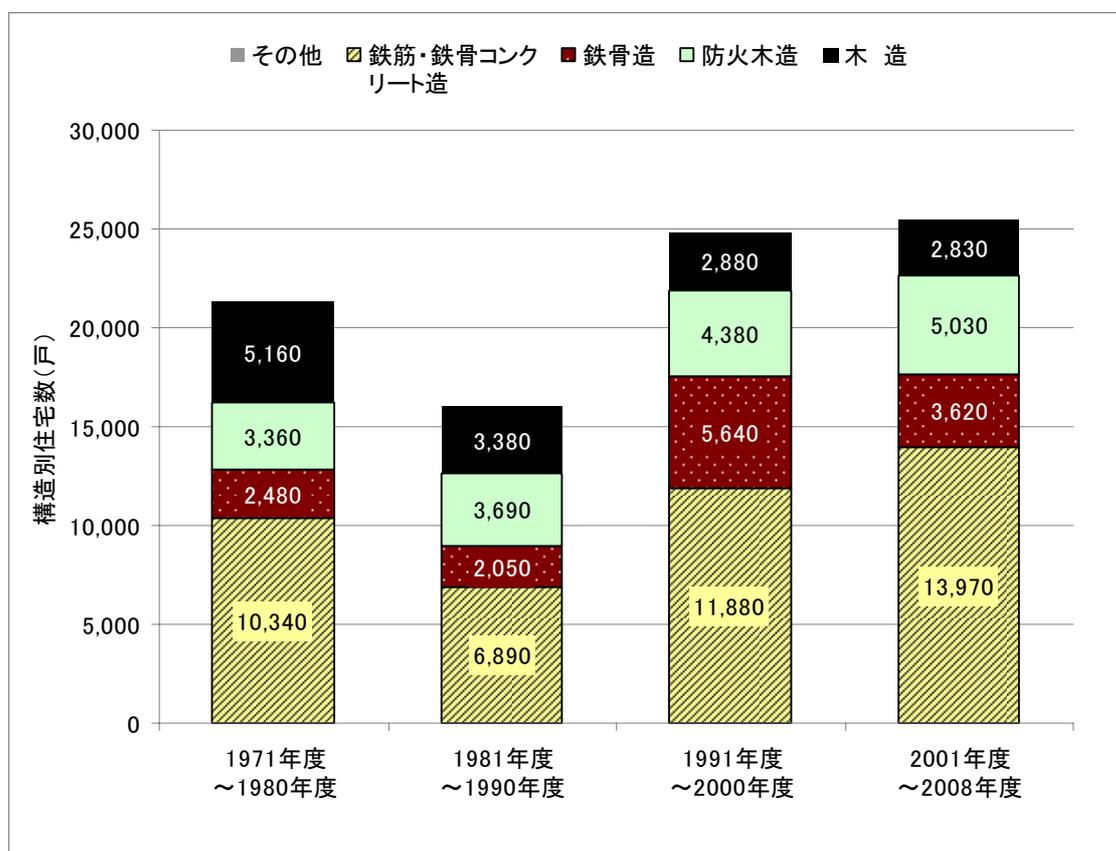


図 構造別住宅着工数の変遷 (出典：茨木市統計書)



### 3 地域特性まとめ

自然特性	
位置・地勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府北部に位置し、京都府亀岡市、高槻市、摂津市、吹田市、箕面市、豊能郡豊能町と接している。</li> <li>・市北半分は丹波高原の老の坂山地の麓の丘陵地、市南半分は三島平野が広がる。</li> </ul>
気象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・穏やかな瀬戸内海気候区であり、平均風速は1.8m/sと弱い。</li> <li>・平均気温は直近30年間で2℃以上上昇している。</li> </ul>
社会・経済特性	
人口と世帯数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口および世帯数が増加している。</li> <li>・世帯数の増加率が高く、世帯あたり人口は減少している。</li> <li>・世帯人数は、1～3人世帯が増加している。</li> <li>・15歳未満人口が減り、65歳以上人口が増加している。</li> <li>・単身世帯や夫婦のみ世帯など、世帯人数の少ない世帯が増加している。</li> </ul>
産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所、従業者数ともに平成8年をピークに減少している。</li> <li>・平成15年から平成19年では、10人以下の中小企業が減少しているが平成20年はやや増加した。</li> <li>・第3次産業が非常に高い割合だが、平成8年以降は減少傾向にある。</li> <li>・製造品出荷額は平成17年をピークに6,000億円程度で推移している。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR東海道本線、阪急京都線、大阪モノレールがそれぞれ運行しており、ここ5年はモノレールの延伸(平成18年)以外では、利用者数は安定している。</li> <li>・バス路線は、阪急バス、近鉄バス、京阪バスの3社が運行しており、利用者数は全体的に微減傾向である。</li> <li>・自動車保有台数は、平成2年時点では10万台程度であるが、直近5年では12万台を超えている。</li> </ul>
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年現在で森林が全体の38%を占め、次に宅地が全体の27%を占めている。</li> <li>・耕地面積は30%程度、農家戸数も25%以上減っている(平成2年比)</li> <li>・森林は、天然林率(アカマツが主)が72%、人工林率が20%程度であり、森林ボランティアによる森林整備が実施されている。</li> </ul>
住宅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新築着工床面積は、平成17年をピークに減少している。</li> <li>・建て方別世帯数分類では、持ち家が増加している。</li> <li>・構造別住宅着工数は、木造住宅が減少し、鉄筋鉄骨コンクリート造が増加している。</li> <li>・持ち家、借家、戸建て、共同住宅とそれぞれ一定数を占めている。</li> </ul>